



市内商業施設における交通安全キャンペーン

令和5年4月から 自転車のヘルメット着用が努力義務化されました！



香川県警察

道路交通法の改正により、令和五年四月から全ての自転車利用者に対し、乗車用ヘルメット着用が努力義務となりました。

香川県では、令和四年に自転車事故で亡くなった方は五人。全員がヘルメット非着用で、うち二人は着用していれば助かっていた可能性があったとされています。自転車事故では、頭部が致命傷となるケースが多くあります。ヘルメットを着用することにより、命が助かる可能性が高まります。自転車に乗るときは、必ずヘルメットを着用して大切な命を守りましょう。



《自転車安全利用五則》

- 一、車道が原則、左側を通行
 - 二、歩道は例外、歩行者を優先
 - 三、交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
 - 四、夜間はライトを点灯
 - 五、飲酒運転は禁止
- ヘルメットを着用

シートベルトを着用しましょう チャイルドシートを利用しましょう

交通安全母の会（こじかクラブ）では、交通安全意識の高揚を図り、交通安全母親活動をより充実させるため、春と秋の交通安全運動にあわせ、チャイルドシート着用率調査を実施しています。令和五年度の結果は、春と秋の平均が72.6%でした。昨年より少し良くなっているものの、まだまだ低い結果です。

運転者のシートベルト着用はもちろんですが、大切な子どもを守るチャイルドシートを必ず利用してください。

高齢者世帯訪問事業

高齢者の交通事故防止対策として、高齢者が集うサロンや教室の場に出向き、チラシ・反射材付きポーチを使い、交通安全啓発を行っています。今後も続けて実施します。

ご要望・お問い合わせ
総務課交通担当まで

総務課（TEL 73-3000）

■編集■後■記■

最近のニュース報道から、安心安全な暮らしは当たり前ではないこと。いつ何時、何が起きてもおかしくない状況の中、安全であるためにはどうすればよいかを考えたい。

自然災害、人的災害では、一人ひとりの自己防衛力が問われ、生死が分かれる。「人命が一番である」とする交通安全母の会においても、自分の身を守る人、考えて行動できる人を目指している。そして、交通事故減少を願い、きまり（ルール）を守る交通安全教室を開催している。車は走る凶器と言われ、一旦停止を怠ると、一瞬で命を落とすこともある。シートベルト、チャイルドシート、ヘルメット着用で命が助かることもある。自分の身は自分で守りましょう。

三豊市交通安全母の会
会長 三木 寿々子

「交通事故のない安全な三豊市を目指して」

三豊警察署長 秦 孝広

三豊市交通安全母の会の皆様方におかれましては、地域や家庭における交通安全意識の向上や交通事故防止のため、常日頃から交通安全活動を積極的に展開されているところであり、そのご労苦に対しまして心より敬意を表します。

さて、昨年の県下の交通事故情勢は、発生件数、死者数、負傷者数ともに前年に比べ減少したものの、人口十万人当たりの死者数は全国ワースト五位となるなど、依然として厳しい状況にあります。

三豊警察署では、本年も「交通死亡事故の抑止」を目標に掲げ、飲酒運転や信号無視等の悪質・危険な違反の取締りを行うとともに、関係機関・団体と連携して交通安全教育や広報啓発活動、交通環境の整備など、「交通事故のない安全な三豊市」を目指して、総合的な交通事故抑止対策に取り組んでまいります。

特に一人ひとりの心に響く交通安全教育は、「交通安全は家庭から」を活動指針とする皆様方の取組みに大きな期待を寄せているところであり、家庭、コミュニティ、そして市全体へと交通安全の機運が高まり、安全行動が浸透しますよう、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、三豊市交通安全母の会の皆様方の益々のご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

交通安全の願い

今も大切に意識しています！

三豊市立詫間小学校

六月二十二日、一年生対象に交通安全の紙芝居があり、交通安全母の会の三木さんが読み聞かせに来てくださいました。コロナ禍でずっと中止になっていましたが、四年ぶりの開催となりました。

二月現在、読み聞かせからはずいぶんと時間が経ちましたが、紙芝居を通して教えていただいたことを子どもたちに聞いてみました。すると、次の2つのことが記憶にしっかりと残っており、普段も意識していることが分かりました。

★左右をしっかりみて横断歩道を渡る。
★シートベルトをちゃんとする。

本校では、集団登校や保護者による送迎、スクールバス利用など、通学方法は様々です。歩いているときだけでなく、大切な家族や友達と車に乗っているときにも自分の命は自分で守れるように、シートベルトの着用については日頃から大事にしてほしいと考えています。

読み聞かせの後、子どもたち全員に車の形のティッシュ箱をいただきました。家に持ち帰り、お家の人とも交通安全について話すきっかけになったのだと思います。学校でも、この意識が続くように、声掛けをしていきたいと思っています。



三世代ふれ愛交通安全教室

三豊市立吉津小学校

今年度の教室は、実に三年ぶりの開催でした。三豊市交通安全母の会と、三豊市PTA連絡協議会母親委員会の共催で、講演会と交通安全のマスケット作りを行いました。保護者だけでなく、幼稚園児から中学生までの子どもたちも参加し、延べ百名以上で学びました。

講話の中で、「チャイルドヴィジョン」を参加者が作り、実際の子どもたちの視野の狭さを改めて知るとともに、それに対する親の役割を分かりやすく講話してもらいました。

マスケット作りは、なかなか難しく、苦戦した部分もありました。しかし、普段、親子で何かを作る機会はありません、協力して作ることで、とても楽しいひと時を過ごすことができました。かわいらしいカメのマスケットを目の前にし、「もっと時間があればなあ」というつぶやきも聞こえてきました。



三豊市交通安全母の会総会

高瀬町 森 洋子

令和五年七月十日、三豊市交通安全母の会総会が開催されました。感染症拡大防止のため、昨年度は書面開催としておりましたが、今年度は五十名余の会員が参加し、会合開催することができました。

まず、山下手長様、秦警察署長様より、ご祝辞をいただきました。議事審議も滞りなく進行了ました。三豊警察署の串田交通課長様からは、「事故から学ぶ自転車のルール」と題した講話がありました。自転車ヘルメットの着用が令和五年四月から努力義務化されていることや、ヘルメット未着用の危険性をしっかりと学びました。

私たちは、「交通安全は家庭から」を合言葉に、地域、家族の安全を守るために、自らが率先しなければなりません。ハンドルを握ったら、まず深呼吸、ゆっくり発進しましょう。



香川県交通安全

母親活動推進大会

高瀬町 香川 隆子

令和五年十一月十日、県庁ホールにて「香川県交通安全母親活動推進大会」が開催され、初参加でしたが、交通安全について意識を高めることができました。

私も後期高齢者になります。日々、見聞きする交通事故の現状に心が痛みます。

高齢者事故には、私も運転者として、今以上にルール・マナーを守ること、十分な時間の余裕をもつこと、シートベルト・ヘルメット着用を守ることを心にとどめます。交通事故を防ぐためには、交通ルールを厳守します。

色々と考えさせられる大会となりました。



交通安全に対する
会員の声を集めました！



★先日用事で歩いて出かけ、信号機のない横断歩道を渡ろうと待っていた時、突然右から来た車が止まってくれました。その時、左から来た車も止まってくれて安心して渡れました。歩道で待っている人がいるときは、必ず停止します。(高瀬町 大井 スエミ)

★孫の幼稚園への送り迎えをしています。車の中では、嬉しかったことや頑張ったことなど色々な話をしてくれます。2人だけの楽しい時間ですが、ハンドルはしっかり握って、より一層安全運転を心掛けます。(高瀬町 小畑 美知子)

★交通安全のキャンペーンで街頭に立つ機会がありますが、今でもシートベルトをしていない人を見かけます。万が一のことを考えて、車に乗ったら「先ずシートベルト」を心掛けています。(山本町 高橋 初枝)

★横断歩道で左右の確認が充分でなかったために、おばあさんが渡ろうとしていたのに気付かず徐行のまま行き、お叱りを受けました。不注意が大きな事故に繋がりがかねない。横断歩道は必ず左右確認を怠らず運転するよう心掛けます。(山本町 安藤 明實)

★交通安全母の会では、年何回か、幼稚園や小学校での交通安全の勉強会を行っています。安全な知識の大切さや、道路での行動の重大さを子どもたちに考えさせています。皆様も子どもが交通安全を忘れかけたときは、ご指導ください。(三野町 西谷 徳子)

★夕暮れ時の外出には、反射タスキの着用とライトの保持を忘れずに心掛けています。薄暗い中での明かりの使用は、相手への注意喚起と自身の安全のために必要と思い大切にしています。(豊中町 合田 恵美子)

★制限速度で走行していますが、スピードを出して追い抜く車が多いです。バックミラーを見忘れている時もあり、気をつけなければならないと思います。大型トラックなどに後からピタッとつけられると度々怖い思いをします。(詫間町 汐見 美代子)

★運転適性診断を受講しました。安全運転を実践するには、まず、自分の運転特性を知ることが大切です。客観的な適性診断により、視覚機能などから自分の特性を把握した上で、日頃の運転ぶりを知ることができました。(仁尾町 中井 日出子)